

## 病害虫発生予察特殊報 第2号

作物名：レタス

病名：レタスコルキールト病(仮称)

病原菌：*Rhizorhapis suberifaciens* Francis et al.

### 1 発生確認経過

東信地域のレタスほ場において、レタス根腐病とは異なる萎凋症状等が確認されたため、平成28年度から長野県野菜花き試験場佐久支場において、原因究明に取り組んだ結果、これまで本県で確認されていない土壌病害の発生が疑われた。このため、根部から分離された細菌をレタスに接種した結果、同様の病徴が再現され、同じ菌が再分離されたことから、土壌病害であることが明らかとなった。佐久支場において分離菌株の細菌学的性状試験、遺伝子解析を行うとともに、名古屋植物防疫所に同定を依頼した結果、令和元年7月、国内では未確認の*Rhizorhapis suberifaciens*によるレタスコルキールト病(仮称)であることが確認された。

現時点(令和元年11月26日)では、国内で本細菌による他の品目の病害報告はない。海外では、アメリカ、ギリシア、オーストラリアなどで「Corky root of lettuce」(英名)として発生が報告されている。

### 2 病徴及び被害

- (1) 地上部では生育遅延、下葉の黄化、重篤な場合は萎凋症状を示す(図1)。
- (2) 根部は主根に黄色のバンドを形成する。バンドは徐々に拡大し、最終的には黒褐色に変色し、根部がコルク化する(図2)。重篤な場合は主根を残し、細根が脱落する(図3)。主根内部の褐変はほとんど観察されないが(図4)、一部の株では、わずかに褐変することもある。
- (3) 初期症状や軽微な発病の場合は、レタス黒根病と症状が類似し、肉眼での識別は困難である。病徴部を検鏡すると、レタスコルキールト病(仮称)では菌泥の噴出が観察でき、一方、レタス黒根病は厚膜孢子、分生子などが観察される。
- (4) 分離菌をアブラナ科(キャベツ、はくさい、ブロッコリー)及びキク科(しゅんぎく、べにばな、ひまわり)植物に接種したが、これらへの病原性は認められなかった。

### 3 発生生態

- (1) 病原菌は、細菌の一種で、土壌伝染する。
- (2) 根腐病等の土壌病害を併発し、重症化することがある。
- (3) 海外では、本病に対しては、品種間で罹病性に差異があることが報告されている。

### 4 防除対策

- (1) 現時点(令和元年11月26日)では、本病に対する登録農薬はない。
- (2) 発病株は抜き取り、ほ場外に搬出し土中深く埋める。
- (3) 連作により土壌中の病原細菌の密度が高まるため、発生ほ場では連作を避ける。
- (4) 本病の発生が確認されたほ場では作業終了時に、トラクター等の農機具類、長靴など土壌が

付着している可能性のあるものについては、ていねいに洗浄して、他のほ場に拡散しないようにする。また、明渠を設置するなどして雨による土壌の流出を防止する。  
(5) 海外の文献によると、窒素過多によって本病の発生が助長されるので、土壌診断に基づいた適正な施肥を行う。



図1 地上部の病徴（萎凋症状）  
（野菜花き試験場佐久支場 提供）



図2 根部の病徴（軽微な株）  
主根に黄色から黒褐色のバンドを形成  
（野菜花き試験場佐久支場 提供）



図3 根部の病徴（重篤な株）  
主根を残し、細根が脱落  
（野菜花き試験場佐久支場 提供）



図4 主根内部の症状（重篤な株）  
根腐病と異なり、内部褐変しない  
（野菜花き試験場佐久支場 提供）

連絡先 長野県病虫害防除所  
TEL : 026-248-6471 (直通)  
FAX : 026-248-6473  
E-mail : bojo@pref.nagano.lg.jp